

安中市役所庁舎・防災拠点センター建設基本計画策定市民会議の開催結果

1 市民会議の設置目的

基本計画策定・基本設計実施に当たり、新しい庁舎に必要な機能等を総合的に検討するために、市民、有識者等の意見・提案等を受けるため

2 委員構成

- ・学識経験を有する者、市民団体等の代表者又は推薦を受けた者、防災に関する知見を有する者、NPO・ボランティア活動に関する知見を有する者、公募による市民その他市長が必要と認める者 18名
- ・会長：北野 敦則（前橋工科大学工学部建築学科教授）
- ・副会長：金井 昌信（群馬大学大学院理工学府環境創生部門広域首都圏防災研究センター災害社会工学研究室教授）

3 開催状況

開催回	開催日	議 題
第1回	2月16日	これまでの取組経緯と技術提案を把握する
第2回	3月24日	市役所庁舎の機能・役割に何を求めるか
視察	4月11日・13日	長野県小諸市役所庁舎視察
第3回	4月15日	市役所庁舎の機能・役割をどうするか
第4回	8月31日	基本計画素案の意見交換

4 市民会議全体としての意見

(1) 防災拠点機能について

- ・市役所庁舎は指定避難所、いっとき避難所とはしない。地区ごとに防災教育をしていき、日ごろから庁舎には避難しないことを周知していくこと。
- ・ヘリポートは設置しない。
- ・マンホールトイレなどは利用する想定がないものは設置しない。

(2) 市民活動・多世代交流機能について

- ・市民が利用できる食堂は必要ない。
- ・多目的スペースは必要である。
- ・交流スペースはないにしても、広報・情報発信スペースは必要である。

(3) その他

- ・新庁舎はコンパクトにするために不必要なスペースは設けない。
- ・コストダウンのため、今後も松井田庁舎の議場を含めて、現在の新庁舎など既存庁舎の活用方法の検討を並行して続けること。
- ・現在地の既存の新庁舎の利活用については、維持管理費を考慮した上で、防災教育のスペースとしての活用を検討すること。
- ・将来を担う若者によるワークショップを開催し、現在地の既存の新庁舎の利活用や、西毛広幹道を活かしたまちづくりを検討すること。

5 4以外の主な個別意見

(1) 防災拠点機能について

- ・市民の皆様の防災意識が低い前提で考えると、司令塔と現場を近づけて危機対応型庁舎とするのであれば、一番大切なのは住民を庁舎に近づけないこと。(第1回)
- ・助ける側と助けられる側が同じ場所に集約されるのは難しいと考えている。(第1回)
- ・庁舎を避難所という位置づけにはしない方がよい。(第1回)
- ・防災拠点センターという名称だと避難所と混同する。(第1回)
- ・避難場所として庁舎の中に大きいスペースは不要と感じる。(第2回)
- ・災害時の一時的なよりどころとして、市役所庁舎の役割として必要だと感じる。(第2回)
- ・屋上ヘリポートが災害拠点として機能するか疑問。庁舎にはヘリポートは不要。防災ヘリポートは、近くのひさよし緑地グラウンドを新庁舎に合わせて整備するのがよい。(第1回・第2回)
- ・敷地内外の緊急車両の動線の確保が重要で、狭い街路には車両を出せないの
で、平時は別として災害時には一方通行化するなどの対応が必要。(第1回)
- ・防災ラボに来て欲しいなら、防災に関心のない市民をターゲットとしてどうしたら来てもらえるか、市民と一緒にしっかりと議論するべき。集客が難しいなら意識しなくても、来庁者に防災情報が目に入るようにしたら良い(第1回)
- ・耐震性貯水槽は、高崎市含め設置している市町村が多い。(第2回)
- ・防災燃料に関しては備蓄が必要。(第2回)
- ・防災広場は、中途半端に設けると動線を遮ってしまう。起伏等は設けず平らの方が使い勝手がよい。(第3回)
- ・マンホールトイレ、かまどベンチ、貯水槽等の機能は必要なのか。マンホールトイレは長期避難時に必要。使い方を学ぶために整備するのであれば、安

中にならば整備する必要があるのかは疑問。かまどベンチを使っているのは見たことがない。(第2回)

- ・実際に避難する場所に防災学習ができる機能を持たせられると、災害時に活きる。(第2回)
- ・東日本大震災の時はガソリン不足があったし、電気自動車の充電などエネルギーインフラの場として活用するのもあると思う。(第1回)
- ・市庁舎がきっかけとなり、防災意識が波及していき、安全安心につながり、安中市に移住する人が増えると良い。(第1回)
- ・情報発信スペースとしてSNS等で地域の防災について情報発信することができる。とよい。(第2回)
- ・災害対応には現在地のスペースとの連携を考えなくてはならない。(第1回)
- ・現庁舎の敷地をボランティアセンターや展示場所や避難場所とすることも考えられるのでは。今ある新庁舎を防災に特化したものとして使い、旧庁舎・中庁舎を撤去して、テントなどを建てるスペースとするのがよい。(第2回)
- ・災害対策本部機能を果たすためのレイアウトの工夫は、当然に行うべき。(第3回)
- ・災害が発生してからでは遅いので、啓発活動ができる場所があった方がよい。(第4回)

(2) 市民活動・多世代交流機能について

- ・チャレンジショップはあった方がよい。(第1回)
- ・災害時利用や平時の市民活動での利用を考えるならば、ただ広いスペースがあればいい。(第3回)
- ・採算も含めてよく検討しないと無駄なスペースとなってしまう。税金を使って建てるので需要を考えるべき。(第3回)
- ・有効性等をよく検討するべきだが、200人程度の規模のホールがあるとミニシアター、音楽の発表会など多目的に使い、使う人が多いのでは。今安中市にないので。(第3回)
- ・のびのびとした学習環境があるのは良かった。(第3回。小諸市視察の感想として)
- ・役所機能以外は必要ないと考えている。他の機能を利用したければ、その機能がある他の施設を利用すればよい。役場機能だけあるようなコンパクトな市庁舎が良い。(第3回)
- ・会議室の貸出しをするのであれば、予約の仕方などを簡易的にして、市民が利用しやすくする。(第3回)

- ・Wi-Fi 付きの小規模なフリースペースがあると来庁者が隙間時間で使える。
(第3回)
- ・キッチンカーが入れるような広場は良い。(第3回)
- ・市役所自体が華美になるのではなく、庁舎建設をきっかけに、周辺地域に波及して活性化につながるような仕掛けができる機能を庁舎で考えられたら良い。(第3回)
- ・新しい庁舎が役所機能だけで良いとは思わない。例えば市内の様々な情報が役所に来たついでに見られると良く、情報提供・発信としての機能は必要。
(第3回)
- ・待ち時間に室内で滞在できるスペースがありデジタルサイネージなどで情報がとれるのは良い。(第3回)
- ・庁舎に人が滞留できるスペースがあると公園、スケートボードなどの屋外イベントと連携して人を集められると良い。(第3回)
- ・使い勝手のよい新庁舎となると良い。(第4回)

(3) その他

- ・トイレはエントランスから近い位置にあると良い。(第1回)
- ・現庁舎を上手く利活用することで、機能を新しい庁舎に持っていかずして現地に残しておいてもよいのでは。(第1回)
- ・庁舎のコンセプトとして必要ない部分は削っていくべき。(第1回)
- ・そもそも市役所には行きたくない。面倒くさい手続きに来るだけなので、短時間がいいし、住民票や確定申告などオンラインで済むなら、来なくて良いようにしてほしい。今は窓口も駐車場も必要だが、10年、20年後、市役所窓口ありきでない時代がすぐ来る。(第1回)
- ・ハンディキャップをもつ人への配慮は当たり前に行ってほしい。(第3回)
- ・庁舎でも隙間時間でクリニックなどを受診できるのも有り。(第3回)
- ・秋間梅林にちなんだものなど、安中市ならではの要素も取り入れてほしい。
(第3回)
- ・使う頻度が少ない諸室はコンパクトで良い。(第3回)
- ・施設を禁煙とするのは当たり前。(第3回)
- ・人口減少に合わせて、公共施設の総量は維持管理コストがかかるので壊す、売却するなど少しずつ減らしながらも、使える施設は有効活用しなければならない。(第3回)
- ・省エネ、環境性能に優れた施設であることも重要。(第3回)

- ・ 駐車場が混雑していた。住民票を取りに行くだけで不便な思いはしたくない。(第3回。小諸市視察の感想として)
- ・ 折角なので100年くらいは新しい庁舎を使って欲しい。(第4回)
- ・ 松井田庁舎の空きスペースを活用すれば、7,200㎡よりももっと面積を減らすことが可能だと思う。また松井田庁舎には素晴らしい議場もあるので、十分利用できる。(第4回)
- ・ 現在地は賑わい創出の場ではなく、既存の新庁舎に部署を残すなどして利用してはどうか。(第4回)
- ・ 使い勝手のよい新庁舎となると良い。(第4回)
- ・ 商店街にチャレンジショップなどテナントを設けて活性化するためには駐車場の整備も重要だと思う。(第4回)
- ・ 現在地の既存の新庁舎も、今後の利活用を検討する上でのモデルとなり得るので、先々のことを考えて検討すると良い。(第4回)
- ・ 高齢者が移動しやすいようにバスなど公共交通の便も考えて欲しい。(第4回)
- ・ 北側入口だとしても新庁舎は明るく開放的な庁舎となるように期待する。(第4回)
- ・ 今まであったもの、松井田地区にあるものも大切に保存して、注目してもらえるようにして欲しい。(第4回)
- ・ 西庁舎や国際交流協会の建物部分に入居している団体の移転先も明記した方が良い。現在地は無駄のないような活用をして欲しい。(第4回)

6 新庁舎建設基本計画（基本構想）への反映

防災拠点センターや市民活動・多世代交流スペースの整備を盛り込んだ基本構想を改訂し、機能的でありながらも可能な限りコストを抑え、将来の財政負担を減らすことを最優先としつつ、環境に配慮し、既存庁舎も活かした新しいまちづくりの核となる庁舎を目指す方向性とした上で、基本計画の策定を進めました。そのほか、可能な限り委員意見を今後反映させながら、設計を進めます。

以上